

ガバナーメッセージ

国際ロータリー第 2640 地区
ガバナー 平原 祥彰



残暑厳しい日が続いておりますが、皆様お元気でロータリー活動にお励みのことと存じます。

8月29日を初日にガバナー公式訪問に取りかかりました。一番に訪問するクラブは直前ガバナーの所属するクラブとの慣例があり河内長野東ロータリークラブを訪問いたしました。ガバナーを送り出したクラブとしてメンバーの皆さんの高い志を感じました。クラブのリーダー、ガバナー補佐の同行をいただきまして市長を表敬訪問いたしました。一時間近く、にこやかに表敬訪問は進みました。市内二つのクラブと市のトップとの親密なおつきあいを感じました。9月20日現在19のクラブの訪問が終了いたしました。56のクラブはこれからです。訪問では唯々生懸命なだけでどれだけ“私の想い”をお伝え出来たかよくわかりません。皆さんにアドバイスをいただきながら最後まで懸命につとめを果たしたいと念願しております。

各クラブはそれぞれに顔があり、特徴、個性ある活動をしております。クラブのメンバーの数に直接関係なく色々な工夫努力を重ね、クラブの活性化を計っております。その努力、工夫を拝見し大変力強く、また、たのもしく感じ、私自身励まされ、いい勉強をさせていただいております。

私は公式訪問を通じてクラブメンバーとお互いにロータリーの夢を語り合いたいと強く希望しております。

1つ1つのクラブ訪問したいと思いそのように皆さんにお願いをいたしました。各クラブの自主性、独自性にますます磨きをかけ停滞することなく、地域社会に一段と存在感を示し、楽しくロータリー活動にお励みくださいますよう強く願っております。

10月は職業月間です。又米山月間でもあります。9月16日、職業奉仕委員会議が開催されました。角谷委員長が職業奉仕について熱い委員長報告を1時間をこえて行いました。テーマは“職業奉仕とは何か”サブテーマは“職業奉仕の危機”でありました。出席の各クラブ職業奉仕委員長の要請により委員長報告の要旨をプリントして各クラブ送付することになりました。又、委員長に卓話をお願いしたいと云うクラブが多数ありこれに対し角谷委員長は時間のゆるす範囲で最大限要請に応えたいと表明されました。又、丸山副委員長、杉本昌史委員、近藤徳雄委員から各々20分程このお話がありました。

IM別チームディスカッションの中で各クラブ職業奉仕委員長は目からウロコの想いであること、この委員会は我々にとって重要な委員会であって職業奉仕こそロータリーの真髄である旨を知ったとの発言がありました。

この機会をとらえ、クラブメンバー各位が“職業奉仕とは何か”“職業奉仕の危機”とは何か大いに討論し実践の力にしてほしいと思います。クラブの委員長はこの委員長会議成果を確実にクラブの皆さんに伝えて活動をもり上げて下さい。

米山奨学事業は1952年東京ロータリークラブが米山梅吉氏の遺徳を記念して「米山基金」を創設したことが始まりです。現在では外国からの留学生を支援する国際奨学事業として“多地区合同奉仕”の活動として民間最大の奨学団体となっております。この事業を推進する資金はロータリアン各位の善意の寄付によってまかなわれております。

我が地区は皆様の御理解のお陰で常に安定して立派に事業を展開いたしております。本年度は29名の奨学生を支援しております。私は各ロータリアンに1人当たり20,000円の寄付をお願いいたしております。昨年度地区寄付の1人当たり平均は19,717円でありました。大変有難く心から感謝いたします。

私からお願いがあります。

クラブ周年記念事業として米山の寄付をクラブとしてお考えいただきたいのであります。金額の多少ではなくクラブの周年を祝い、さらに発展を願う記念にすべき行事に青少年の未来を考え、又国際理解をすすめるロータリークラブとして是非一考していただきたいと思います。

